

第2次
滝川市環境基本計画・地域行動計画

年次報告書(案)
(平成30年度版)

滝 川 市

◇第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画 年次報告書とは…

滝川市では「第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画」（以下「環境基本計画」という。）という環境に関する計画を平成28年3月に策定しました。環境基本計画では、滝川市では環境においてどのような取組が行われているか、また、実際にはどこまで成果が上がっているのかなどを、毎年、検証することにも取り決めています。この報告書はその一環として前年度の状況などをとりまとめて、皆さんにご報告するためのものです。

「第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画」とは

目指すべき環境の姿を実現するため、次のとおり基本目標を掲げます。

また、この基本目標を達成するため、環境を構成する4つの分野のそれぞれに基本目標を定めます。これらの分野別基本目標は、第1次計画における4つの分野別物語に当たるものです。

基本目標

豊かな環境を1人ひとりが守り育む

『環（わ）のまち』たきかわ

目標1 生活環境

環境にやさしく資源を有効に活用する循環型社会を目指すまち

目標2 地球環境

エネルギーを大切にし、環境への負荷の少ないまち

目標3 自然環境・農業

身近な自然と触れ合うことでその大切さや素晴らしさを実感できるまち

目標4 環境コミュニティ

みんなが学び、共有することによる環境保全の環（わ）が広がるまち

計画では平成37年度までに、次のとおり具体的な数値目標を設定しています。

項 目	目標値	備 考
市民1人・1日当たりのごみ排出量(家庭系ごみ) ※資源ごみは除く	500g	—
リサイクル率	25.0%	—
省エネモニターのCO2排出量	年平均1%減	—
滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量	4,250kg	—
エコネット登録団体の自然保護活動参加人数	8,700人	—
農業体験授業(事業)実施校数	150校	—
環境学習リーダー養成講座の受講者数	350人	第1次計画175名からの累計
環境市民大会における参加者の平均評価点	85点以上	—

(1) 生活環境（身近な問題）

1 平成 30 年度における数値目標の達成状況について

市民 1 人・1 日当たりのごみ排出量（家庭系）

目標値（平成 37 年度時点） 500 g/人・日

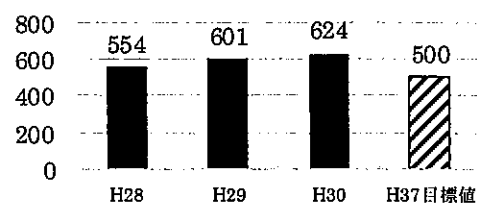
実績値（平成 30 年度） 624 g/人・日

リサイクル率

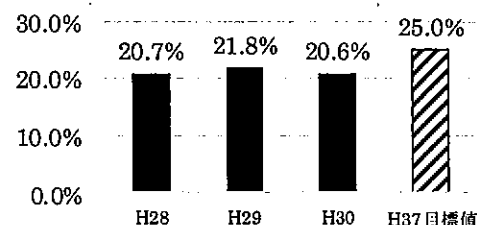
目標値（平成 37 年度時点） 25.0%

実績値（平成 30 年度） 20.6%

☆H30 年度の状況

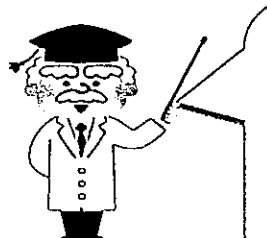


市民 1 人・1 日当たりのごみ排出量



リサイクル率

平成 30 年度の評価



昨年度に比べて市民 1 人・1 日当たりのごみ排出量は増加し、リサイクル率は減少しました。この理由は、火災や雪害等で発生した罹災ごみ（粗大ごみ）処理のためで、これを除くと、前年度並みとなります。

引き続き、市民運動「エコたき」を推進して行くとともに、市内全世帯に配布した「ごみ分別ガイド」や広報での周知などを確認してもらい、市民間のごみ減量化とリサイクル意識の向上をめざします。

区分		単位	30 年度	29 年度
収集人口 ①		人	39,997	40,523
収集世帯		世帯	21,365	21,395
家庭系	生ごみ	t	1,638	1,689
	燃やせるごみ	t	5,282	5,216
	燃やせないごみ	t	528	492
	粗大ごみ	t	1,010	806
	資源ごみ	t	658	683
	計 ②	t	9,116	8,886
事業系	生ごみ	t	1,676	1,880
	燃やせるごみ	t	2,618	2,694
	燃やせないごみ	t	93	92
	粗大ごみ	t	261	※'607
	資源ごみ	t	64	74
	計 ③	t	4,712	5,347
資源化量 (資源回収以外)	燃やせないごみ・粗大ごみより回収	t	492	610
	生ごみより回収 ※H29 年度から生ごみからのバイオガス分を追加	t	470	496
	資源ごみより回収	t	694	726
	計 ④	t	1,656	1,832

資源回収	拠点回収	t	60	66
	集団資源回収	t	1,433	1,561
	資源回収の合計 ⑤	t	1,493	1,627
合計 ⑥ (②+③+⑤)		t	15,321	15,860
埋立処分量		t	1,272	1,337
●リサイクル率 (④+⑤) / ⑥		%	20.6	21.8
●市民1人・1日当たりのごみ排出量 (家庭系※1)		g	624	601

表1 一般廃棄物の収集内訳等

●印は数値目標項目

※1 資源ごみ及び資源回収除く

2 平成30年度における主な取組について

(1) 市民運動エコライフたきかわ(=エコたき)の推進

滝川市では、新しい市民運動として、平成28年度からいつでも、どこでも、だれでも簡単にできる「人」と「地球環境」にやさしい行動「エコたき」の推進を行っています。

平成30年度は「エコたき」の基本となる「エコたき4か条」の「コ(ゴミを減らして快適ライフ)」を重点的な普及目標とし、専任講師から特別な指導を受けた高校生や短大生が、保育所、小学校、こども科学館で子ども達に「日常の『もったいない』から考える地球温暖化」、捨てるものを有効活用した工作教室「捨てずに上手にリサイクル」などをテーマにした環境教室を実施しました。



(2) 集団資源回収事業

町内会をはじめとした各種団体において、資源の回収を奨励し、回収された資源の量に応じて、奨励金を交付するものです。

実施団体数 延べ305団体(前期152団体、後期153団体)
奨励金交付額 約286万円(前期145万円、後期141万円)

単位：t

		30年度	29年度
区分	紙パック	1	1
	紙類	1,125	1,232
	びん類	136	144
	金属類 (スチール缶、アルミ缶、その他金属)	88	98
	ペットボトル	81	86
	その他	1	0
	計	1,431	1,561

(3) カレンダーリサイクル事業

年末年始に個人や事業所等で受け取るカレンダーや手帳などのうち、自ら使用する見込みのないものを提供していただき、これらを滝川市役所にて展示し、希望者に対してその場でお渡ししました。期間中（第1次／12月27日、第2次／1月7日）にカレンダー1,709点、手帳109点が新たな持ち主に引き取られ、有効活用が図られました。

※平成30年度は新たな試みとして、1月8日～23日まで市立図書館でもカレンダーを配布

(4) 滝川市リサイクルフェアの開催

市内でも屈指の規模のフリーマーケットである滝川市リサイクルフェアは、今回も空知自動車学校の協力をいただき、同校教習コースで開催される「WaiWai フェスタ」と合同イベントとして実施予定でしたが、平成30年度は悪天候のため中止しました。

(5) リユースショップ情報発信事業

資源の有効利用やごみの減量化を推進するための取組の一環として、製品等の再利用（リユース）の円滑化を図るべく、市内で古物営業を営む事業者店舗の情報を集約し「滝川市リユースショップ一覧表」として情報提供を行いました。

情報発信依頼店舗数：7店舗

(6) 古着・古繊維の拠点回収について

ごみの減量化やリサイクル率の向上を目的として、ご家庭で不要となった古着・古繊維の拠点回収を滝川市役所や旧粗大ごみ処理センター（中島町210）、江部乙支所で回収しました。

平成30年度の回収量は約7tで、前年度の約5tから回収量が約2t増となりました。

(7) 小型電子・電気機器の拠点回収について

ごみの減量化やリサイクル率の向上を目的として、ご家庭で不要となった小型電子・電気機器の拠点回収を滝川市役所と江部乙支所、まちづくりセンターで行いました。

平成30年度の回収量は約29tで、前年度の約27tから回収量が約2t増となりました。

(8) 雑がみの回収について

燃やせるごみの削減及び資源循環促進の一助として平成26年4月から、新たに「雑がみ」を資源ごみに加えました。平成30年度は21tで、前年度の27tから回収量が約6t減となりました。

(9) 滝川市フリーマーケット情報交流事業

滝川市内で開催されるフリーマーケットの情報を滝川市公式ホームページや電子メールを通じてPRし、フリーマーケットの活性化を支援する取組です。電子メールでの情報は市内外を問わずあらかじめアドレスを登録していただいた方に対して随時、送信しました。

発信したフリーマーケット開催情報の件数：2件

登録件数：81件

(10) たきかわクリーンデーの実施

清掃による環境美化のみならず、清掃活動を通じた環境への意識高揚が期待される全市一斉清掃「たきかわクリーンデー」を町内会・学校・事業所など多くの市民の皆様にご協力いただき、春・秋の年2回実施しました。

	実施期間	参加団体数等	参加人数
春	4月21日～5月20日	158 団体 (町内会：131、事業所：12、団体 10、学校：5) ボランティア袋配布数：40 リットル／3,535 袋 20 リットル／1,370 袋	6,970 人
秋	9月22日～10月21日	80 団体 (町内会：68、事業所：3、団体：5、学校：4) ボランティア袋配布数：40 リットル／1,398 袋 20 リットル／ 545 袋	2,929 人

(11) 滝川市（公用）ボランティア袋の配布

まちの美化は住民と行政が互いに協力し合って取り組むテーマであり、多くの人々が利用する道路や公共施設がきれいになっていることは、「心地よさ」とともに地域や市全体の「誇り」です。

きれいなまちで暮らすため、道路、公園、河川、公共施設などの清掃・美化にご協力いただける団体・個人の皆様に、滝川市では無料でボランティア袋の配布を行っています。なお、クリーンデーに参加される方にも配布しています。

※平成 30 年度は、3,404 枚（40 リットル／2,151 枚、20 リットル／1,253 枚）を配布。

(2) 地球環境 (地球全体の問題)

1 平成 30 年度における数値目標の達成状況について

省エネモニターの CO2 排出量

目標値 年平均 1 %削減

実績値 (平成 30 年度)

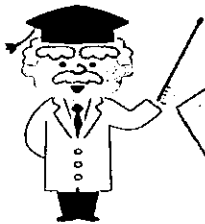
前年比 1.03% 減

滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量

目標値 原単位で年平均 1 %削減

実績値 (平成 30 年度) 4,500kl

※前年比 0.93%減



平成 30 度の評価

環境省の補助事業を活用し 2030 年度まで日本政府が進める国民運動「COOL CHOICE (=賢い選択)」と市民運動「エコたき」をキーワードにした「COOL CHOICE でエコたき」を柱とした普及啓発事業を行い、市民や事業者在省エネルギーやゴミ削減を主とした CO2 削減活動に努めるよう周知しました。今後も、地球温暖化防止の普及啓発事業を継続して行うほか、ホームページや新聞などを通して、年々深刻化する地球温暖化の現状を知ってもらい、市民が温暖化防止に向けて、市民自ら考え・行動できるような呼びかけを行っていきます。

(1) 省エネモニターの実施

内容：各家庭の生活の中でエネルギー消費を意識し、効果的な省エネルギーにどのように取り組むべきかを考えていただけるよう、一般市民を対象に省エネモニターを実施しました。

参加世帯数：26 世帯

モニター対象期間：平成 30 年 8 月分

～平成 31 年 2 月分

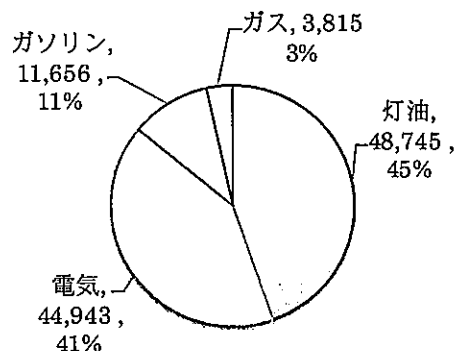
対象エネルギー：電気、ガス、灯油、ガソリン



※モニターとして参加した方には、環境省や北海道が発行している「省エネ」に役立つパンフレットを配布しました。

モニター世帯における二酸化炭素排出量

二酸化炭素排出源の構成割合



★二酸化炭素排出量算出方法

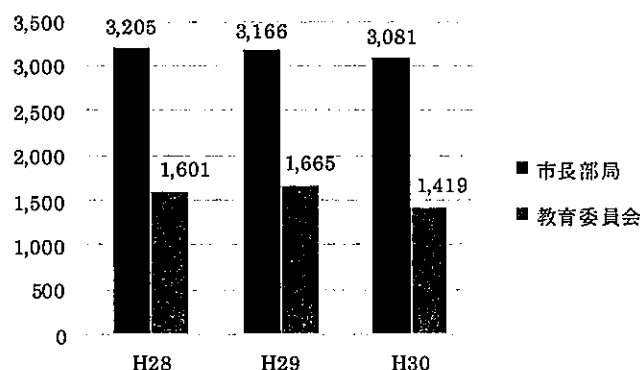
26 世帯の使用量の合算を環境省が定める CO2 排出量の計算式にあてはめ算出しています。

灯油	19,576 (L)	× 2.49	= 48,745kg
ガス	639 (m³)	× 5.97	= 3,815kg
電気	65,995 (kWh)	× 0.681	= 44,943kg
ガソリン	5,025 (L)	× 2.32	= 11,656kg

(2) 滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量について

滝川市が管理する公共施設全体で平成30年度1年間に消費したエネルギー量は原油の量に換算すると4,500キロリットルになります。

滝川市の公共施設エネルギー消費量
(1年間に消費したエネルギー量を原油量に換算)



(3) 二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金を活用した事業の実施について

平成28年度から二酸化炭素排出抑制対策の一環として、環境省の標記補助金を活用し、地域の将来を担う若者たちへの環境教育を主題とした事業を市内教育機関や企業と連携して実施しました。

主な実施内容は以下のとおりです。

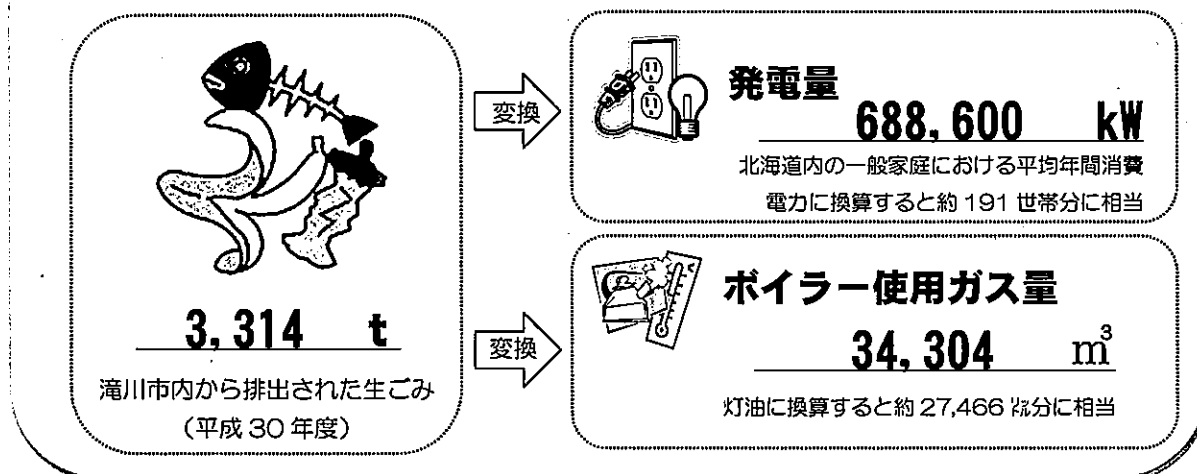
実施内容	備考
空知自動車学園と連携したエコドライブ講習会・エコドライブメールマガジンの配信	講習会／84回(340名) メールマガジン配信／月2回×7か月＝14回(配信者数／1,100名) 高齢者講習／56回(1,152名)
北海道環境財団による高校生を対象とした環境学習リーダー養成講座	詳細はP18ページ時参照
高校生によるCOOL CHOICEと地球温暖化・持続可能なエネルギー講座	詳細はP19参照
地球温暖化防止活動普及大使養成講座	詳細はP19参照
環境市民大会「高校生環境シンポジウム in 滝川高校」	詳細はP20参照
滝川市立開西中学校での地球温暖化講演会&ワークショップ	詳細はP20参照
市内全保育所と連携したCOOL CHOICEでエコドライブ&クールビズ・ウォームビズ啓発展示	詳細はP21参照
滝川消費者まつりでの地球温暖化防止活動普及大使による「COOL CHOICE 普及ブース」出展	詳細はP21参照
プレス空知、北海道新聞空知版への記事広告の掲載 ※記事の詳細は、くらし支援課HPに掲載	プレス空知(15,000部)／2回 北海道新聞(63,000部)／2回
中・高校生対象「COOL CHOICEでエコたき」ポスターコンテストの実施 ※入賞作品をステッカーに加工し、中央バス市内線へ掲出	市内線20台

(4) バイオマスのエネルギー利用

① 生ごみのエネルギー利用

東滝川にある中空知衛生施設組合リサイクリーン（滝川市のほか赤平市、芦別市、雨竜町、新十津川町と共同で運営）では、各市町で分別回収された生ごみ（一般廃棄物）から、メタンガスというエネルギーを取り出しています。メタンガスは発電機やボイラーの燃料として供給され、電力や熱に変換され施設の運営等に活用されています。

◆リサイクリーンで生ごみから生み出された電力と熱



※それぞれ、施設全体の発電量及びボイラー使用ガス量に滝川市の生ごみ排出割合(62.6%)を乗じた値です。

② 下水道汚泥のエネルギー利用

滝川市の下水道は石狩川流域下水道(北海道及び6市4町により運営)に接続されており、奈井江町内にある下水道処理施設(奈井江管理センター)に送られ浄化されます。

そこでは、浄化処理の過程で有機物からメタンガスを取り出し、生ごみ処理と同様、得られたガスを電力や熱に変換して利用しています。

	施設全体	滝川市分
I 汚泥処理量 (t)	3,390	1,390
II 消化ガス発生量 (m³)	1,500,000	615,000
III 消化ガス使用量 (m³)	1,413,000	579,300
→消化ガス発電等として利用		
IV 発電量(kWh)	1,585,000	649,850

※発電量：北海道内の一般家庭における平均年間消費電力に換算すると約 180 世帯分に相当

※Ⅱ～Ⅳの滝川市分は下水処理量の割合から按分した値です。

③ 可燃ごみ焼却によるエネルギー利用

滝川市の可燃ごみは、中・北空知廃棄物処理広域連合（5市9町により組織）が設置、管理及び運営している歌志内市にある一般廃棄物焼却処理施設（中・北空知エネクリーン）に搬入、処理されます。施設はエネルギー回収推進施設として、ごみを焼却したときに出る熱を利用して蒸気タービンで発電しています。発電した電気は、施設内で使われ、余った電気は売却し、有効活用しています。

	施設全体	滝川市分
I 可燃ごみ搬入量（t）	23,761	8,823
II 可燃ごみ焼却量（t）	22,673	8,418
III 発電量（kWh）	11,433,054	4,245,093
→売電（kWh）	→6,971,274	→2,588,434

※発電量：北海道内の一般家庭における平均年間消費電力に換算すると約 1,178 世帯分に相当

※Ⅱ・Ⅲの滝川市分は、Ⅰの割合から按分した値です。

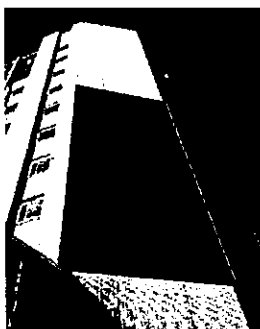
(5) 市内公共施設における太陽光発電設備のデータの公表

平成 22 年度に設置した滝川市役所庁舎壁面の太陽光発電設備のほか、滝川市内の公共施設（北海道滝川高等学校、札幌地方検察庁滝川支部、滝川第三小学校、滝川ふれ愛の里）に設置されている太陽光発電システムの発電量も集計し、滝川市公式ホームページにおいて公表しています。

インターネットで「滝川 公共施設 太陽光発電」と検索してみてください。

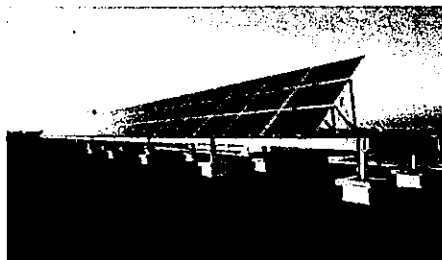
各施設における発電量について

i) 滝川市役所



- ・出力：5 kW
- ・角度：90°
- ・年間発電量：3, 809. 1kWh
- ・設置年月日：平成 22 年 12 月

ii) 北海道滝川高等学校



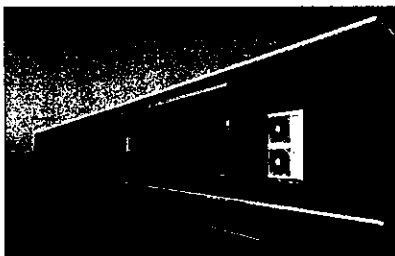
- ・出力：20kW
- ・角度：50°
- ・年間発電量：23, 312. 6kWh
- ・設置年月日：平成 22 年 12 月

iii) 札幌地方検察庁滝川支部



- ・出力：5 kW
- ・角度：45°
- ・年間発電量：6, 050. 4kWh
- ・設置年月日：平成 22 年 7 月

iv) 滝川第三小学校



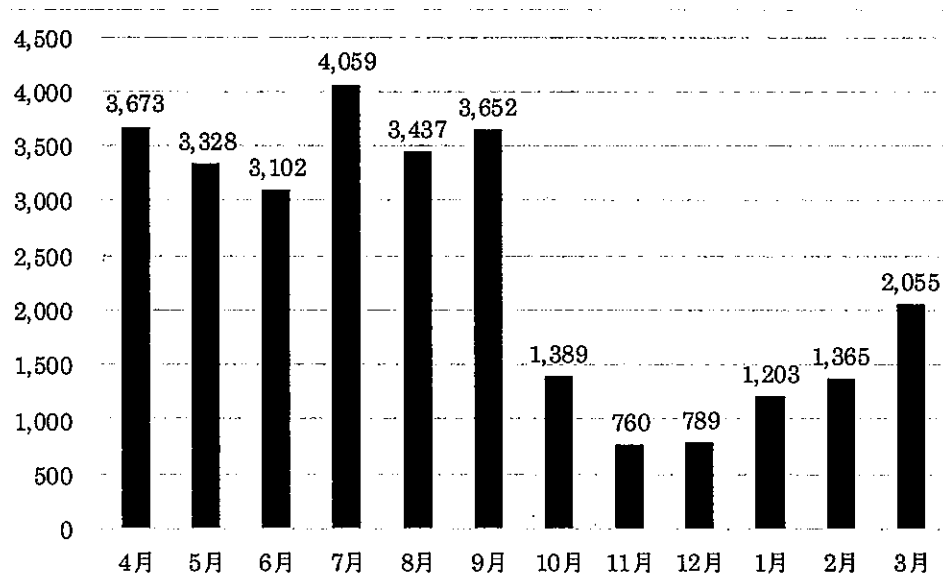
- ・出力：10kW
- ・角度：90°
- ・年間発電量：10, 030. 8kWh
- ・設置年月日：平成 27 年 3 月

v) 滝川ふれ愛の里



- ・出力：12kW
- ・角度：45°
- ・年間発電量：12, 888. 91kWh
- ・設置年月日：平成 27 年 4 月

平成 30 年4月～平成 31年3月 太陽光発電設置 4 施設の発電量合計グラフ



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
最大値	130	113.2	117.2	117.2	116.4	124.2	54.3	52.0	51.4	52.7	51.9	67.1
最小値	0.5	1.1	1.9	0.8	3.9	4.5	7.2	2.9	3.7	7.6	10.4	7.8

※発電量合計は、集計機器トラブルや雪害等の影響で全ての施設の数値が反映されていません(詳細は、滝川市役所ホームページを参照ください)

※検察庁は毎月の総発電量のみ集計しているため最大値、最小値の集計から除外(滝川市役所9月～11月、北海道滝川高等学校 10月～3月は集計機器トラブル等の諸事情により、集計から除外)

※ふれあいの里は管理者(経営者)の変更等により計測機器が撤去されたため、集計データなし

(6) 町内会街路灯切替促進補助金

希望する町内会の街路灯を LED に切替促進するための補助金を支出し、町内会等が維持・管理する街路灯を LED に切替促進しました。

平成 30 年度実績：454 灯

※街路灯の LED 化率 62.4% (LED：3,671 灯、LED 以外：2,213 灯 合計 5,884 灯)

(7) 市内コミュニティセンター等の照明を LED へ切替しました。

コミュニティセンタ名	場所	切替数
扇町地区コミュニティセンター	集会室	8 基
	廊下	4 基
	調理実習室	3 基
東滝川地区転作研修センター	外灯	2 基
北地区コミュニティセンター	図書館	6 基
	1F ホール	8 基
緑地区コミュニティセンター	体育室	8 基

(3) 自然環境・農業（自然・農業の保全）

1 平成 30 年度における数値目標の達成状況について

エコネット登録団体の自然保護活動参加人数

目標値（平成 28 年度～37 年度累計） **8,700 人**

実績値（平成 28～30 年度累計） **3,137 人**

ONPO 法人まち・川づくりサポートセンター

- ・石狩川クリーンアップ作戦／91 名
- ・石狩川再生の森／6 名
- ・WET プログラム（春・夏・秋・冬）／1,337 名

◎江部乙丘陵地のファンクラブ

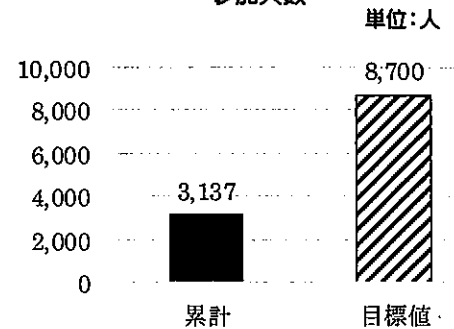
・フンドバス参加者／85 名

◎滝川おもじろ食育塾（農業体験）

- ・思春期食育教室／210 名、青年期食育教室／171 名

☆H30 年度までの状況

エコネット登録団体の自然保護活動参加人数



エコネット登録団体の自然保護活動参加人数(累計)

農業体験授業（事業）実施校数

目標値（平成 28 年度～37 年度累計） **150 校**

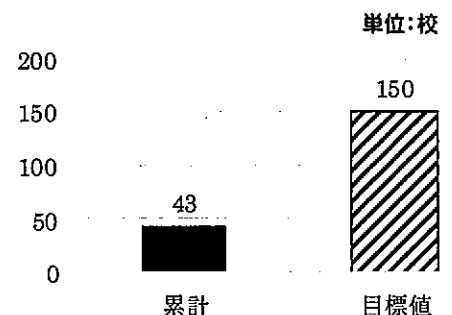
実績値（平成 28～30 年度累計） **43 校**

○平成 30 年度の実施校 15 校（順不同）

滝川幼稚園、白樺幼稚園、一の坂保育所、江部乙保育所、花月保育所、中央保育所、三の坂保育所、第一小学校、西小学校、江部乙小学校、江陵中学校、開西中学校、江部乙中学校、北海道滝川西高等学校、國學院大學北海道短期大学部

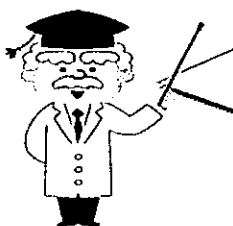
☆H30 年度までの状況

農業体験授業実施校数



農業体験授業（事業）実施校数(累計)

平成 30 年度の評価



「たきかわエコネット」の新規登録団体増加並びに既存団体への自然保護活動実施の呼びかけや支援、農業体験の実施などについては、生き物や自然の大切さを知り、限りある資源に感謝する心を育てるために必要不可欠なものです。今後も、民間団体や教育機関、各所管との相互協力を進めながら、それぞれの拡大に向けて継続的に取り組んでいきます。

2 平成 30 年度の主な取組等について

(1) 地域農業の振興と住民等との交流促進のための取組

① そらちワイン×ワイン Festa

開催日：平成 30 年 9 月 1 日（土）、2 日（日）

場 所：JA たきかわ赤レンガ倉庫前駐車場

来場者：2,200 名

内 容：空知管内 7 ワイナリーで醸造された 21 種類のワインや滝川産クラフトビールの販売のほか、滝川市内外の飲食店 13 店舗によるお酒に合う料理の提供なども行い、来場者に滝川と空知の食の魅力を発信しました。

② 農業体験の推進

i 心と体を育てる体験型食育教室

地域農業者との連携を図りながら、農業体験等を通じて、次世代を担う子どもたちや学生たちに食や環境の大切さについて理解を深めてもらうためのプログラムを実施しました。

たきかわエコネット

「滝川おもしろ食育塾」による取組

■思春期食育教室

開 催 日：平成 30 年 6 月 1 日（金）～10 月 19 日（金）

対 象：滝川西高等学校 3 年生（フードデザイン選択）

内 容：畑作体験（畑おこし、種まき、講義、収穫、調理・加工実習）

参加人数：延べ 210 人（全 10 回）

■青年期食育教室

開 催 日：平成 30 年度の年 6 月 6 日（水）～12 月 19 日（水）

対 象：國學院大學北海道短期大学部初等教育学科 2 学年

内 容：稲作体験（田植え、生き物観察、稲刈り・はさがけ、脱穀）

調理実習（収穫祭）など

参加人数：延べ 171 人（全 5 回）

ii グリーンツーリズムに係る取組

「そらち D E い～ね」を介した受入事業

時 期：平成 30 年 5 月 28 日（月）～平成 31 年 1 月 29 日（火）

参加人数：14 校 96 人（前年度 13 校 91 人）

農 家：延べ 26 戸（前年度 23 戸）

※平成 30 年度より、國學院久我山中学校（東京都）の受入れも「そらち D E い～ね」で実施

(2) 自然とふれあいの取組

たきかわエコネット

「たきかわ環境フォーラム」による取組

■エコカフェの開催（平成30年5月26日（土）～平成31年3月10日（日）（全5回））

※テーマに沿って講師を中心に身近な環境問題について語り合う集いです。

事業名概要	講 師
① 「フクシマの教訓は、どこに？みんな で北海道のエネルギーを考えよう」 ・開催日：平成30年5月26日（土） ・場 所：まちづくりセンターみんくる	山形 定さん （工学博士、北海道大学大学院助教、NPO 法人北海道新エネルギー普及促進協会 （NEPA）理事長）
② 「石狩川のひきがえる」 ・開催日：平成30年7月28日（土） ・場 所：まちづくりセンターみんくる	八谷 和彦さん （農学博士、北海道自然保護協会会員、深 川ひきがえるバスターズ）
③ 「リンゴ畑の連なる丘から～ユペオツ 民族誌へ～」 ・開催日：平成30年9月23日（日） ・場 所：まちづくりセンターみんくる	河野 敏昭さん （滝川市美術自然史館学芸員）
④ 「オホーツクの不思議な生き物たち」 ・開催日：平成31年2月3日（日） ・場 所：まちづくりセンターみんくる	桑原 尚司さん （北海道立オホーツク流氷科学センター 学芸員）
⑤ 「たきかわコウモリ観察調査報告会」 開催日：平成31年3月10日（日） ・場 所：まちづくりセンターみんくる	【ゲスト講師】福井 大さん （東京大学北海道演習林） 【報告】長澤 秀治さん、平田 剛士さん

■例年、滝川市南東部の石狩川水系空知川においてCOD（化学的酸素要求量）値を測定
するために行っていた「身近な水環境の全国一斉調査」への参加は、平成28年度よ
り滝川高等学校科学部へ引き継ぎました。

(3) 川との共生に向けた取組

たきかわエコネット

「NPO まち・川づくりサポートセンター」による取組

◆みんとち自然体験楽校（団体） ※みんとち=アイヌ語でカッパの意味

1年を通じて石狩川の自然を体験してもらうため、春・夏・秋・冬の4つのコース
を計画し、石狩川から学ぶ自然体験活動を通して、自然からの発見と体験の面白さを
直接体験する内容を計画しました。また、活動を通して仲間との協力や異年齢との人
間関係を学び、社会性や郷土愛も育まれることも期待できます。（滝川市内の小学校3
年～6年生を対象として参加者を募集）

① 春コース：みんとちのひみつ

開 催 日：平成30年6月2日（土）

内 容：石狩川周辺の春の自然観察を行いました。天候に恵まれ「石狩川再生の
森」までの春の植物や野鳥の観察を行いました。

「自然ビンゴ」では、五感を通して発見する楽しさを味わった。高学年が道
路わきの空き缶やペットボトル等のゴミを自主的に拾う様子が見られました。

参加人数：14名



何気ない草むらもよく見ると…様々な発見が！！

② 夏コース：みんとちの冒険

開催日：平成30年7月28日（土）～29日（日）

内容：石狩川から見る川岸の自然を観察し、川の体験活動を通して、E-ボート、川流れ、魚すくい、浸水市街地歩行訓練など自然体験を通して川と暮らし、防災の基礎知識も学びました。夜は、段ボールを利用した防災キャンプを行い、非常食を食べ避難所生活の疑似体験をしました。

2日目は、水害時に活動する機関や自治体などの役割を分担し、復旧までの様子をゲームで体験する活動を行いました。2日間の体験を通して、身近な川と災害・川の危険性、川の環境保全、川遊びの楽しさなど楽しさと危険性の二面性についても意識を高めることができました。

参加人数：各日24名（合計48名）



水中歩行：流れる水の強さを体感



水圧体感：ライフジャケットで川流れ



水害想定図上訓練：DIG

③ 秋コース：みんとちの知恵

開催日：平成30年9月29日（土）

内容：サケの遡上や自然産卵の観察を通して、環境の変化や動植物とのつながりについて興味や関心を持つことをねらいとしました。また、自然物を活用した創作活動をしたり、魚類の観察をしたり、滝川産リンゴの味比べなど秋の自然を五感で体験できるように計画しました。

参加人数：24名



サケの遡上を観察



秋の魚類観察



イタドリ水鉄砲で水遊び

④ 冬コース：みんとちのかくれ家

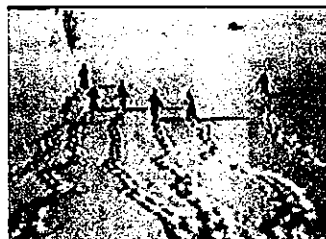
開催日：平成31年2月2日（土）

内容：冬の石狩川周辺の自然を観察し、水の変化や北海道ならではの雪に親しむ活動を計画しました。雪を踏み固めて切り出したブロックを積み重ねてイグルーを作ったり、雪原を歩いたり、動物の足跡をたどったり、冬芽を観察したり、雪に閉ざされていても、生物は春の準備をしていることや生命を維持していることなどを体験的に学びました。

参加人数：30名



雪のブロックを積み重ねる作業



スノーシューで雪原探索



イグルーの中と外の違いを体感

◆「滝川地区地域防災施設（川の科学館）」来館者への普及活動

●来館者：3,570人（体験型環境学習参加者：大人1,885人／子ども1,685人）

◆滝川地区地域防災施設を活用した環境・防災の学習

●プロジェクトWET

※ プロジェクトWET (Water Education for Teachers)とは…
世界66以上の国と地域で活用されている水教育プログラム「プロジェクトWET (Water Education for Teachers)」は、子どもたちが主体的・対話的で深い学びが得られるように開発され、アクティブ・ラーニングの視点と合致するツールです。
(出典：公益財団法人（プロジェクトWETジャパン）)

① 流水実験

実験装置による流れる水の働き（浸食・運搬・堆積）を観察し、狭い川と広い川の水の流れを比べ、流れる水の働きによる地形の変化を実験装置で分かりやすく説明しました。また、水量が増える原因やその結果についても考えさせ、気象や地形、川との暮らしや災害との関連についても気づいたり考えたりできるようにしました。

② 自然再生ジオラマ

石狩川は、長さ日本第3位の一級河川であることを説明。実験装置で蛇行している川と治水により直線になった川の違いを目で確かめることにより、流速や低地の様子、川の役割などを学年に応じて分かりやすく説明しました。また、石狩川とともに人々の暮らしや産業が発展したことにも気づかせる工夫を行いました。

（学校教育との関連：小5社会、小5理科、全学年及び一般への石狩川の知識）

③ 「プロジェクトWET」による水の環境学習（表面張力の実験）

地球上を取り巻く水や地球環境について体験的に学ぶ活動として、「驚異の旅」「水リンピック」「水のババ抜き」「青い惑星」など手軽に出来るものを準備して実施しました。

④ 石狩川1/1000模型で調べよう（リバーウォーク）

神居古潭から石狩湾までの流域で合流する河川名、市町村名、ショートカットによりできた三日月湖を調べたり、石狩川の中流域の様子や滝川市の近隣市町の様子を模型の川を歩きながら調べたりできるようにカードを用意しました。

（学校教育との関連：生活科、小4社会、小5・6理科）



流水実験



自然再生ジオラマ



「青い惑星」地球の陸と水の割合を調べる



「水のババ抜き」地球上の水の三態を知る



模型を活用したリバーウォーク



●防災学習

⑤ 防災・減災を考える体験活動

近年の気候変動や河川災害の状況から、防災に関する学習活動を要望する学校も見られるようになりました。災害想定図上訓練の活動を通して、自分達の住む地域の特徴を知り、想定される災害を予想し、いざという時の行動や避難方法、想定外についても考えられるような学習を提供しました。

⑥ 川から自然環境を考える活動（川下り）

平成30年度は、Eポート（10人乗りのゴムボート）による川下りを実施し、多くの市民に川を体験してもらいました。川から見る自然は感動や新たな視点で物事を考えるということに気づくきっかけになると考えており、石狩川や支流の空知川下りを通して、参加者それぞれが河川環境や文化・歴史・暮らし、災害・減災・防災などについて気づいたり考えたりできるようになることを期待しました。

参加者は、川岸の漂流物などを目の当たりにし、水災害の恐ろしさや川のゴミは街からのゴミであること、流域全体で環境を考えることが大切であることなどに関心を寄せていました。

また、空知川では、今では採炭されなくなった石炭の大露頭を川から見ることができ、地域の産業遺産にも関心を持っていました。



●環境美化活動

⑦ 石狩川クリーンアップ作戦

私たちの暮らすまちや川をきれいにし、豊かで過ごしやすい空間になるように、河川愛護団体や町内会、ボランティア等の団体に呼び掛けて、石狩川やラウネ川周辺のゴミ拾いを行いました。

開催日：平成30年5月27日（日）

参加人数：9団体91名



(4) 森との共生に向けた取組

「江部乙丘陵地のファンクラブ」による取組

■フットパス事業（全9回）

開催日：平成30年5月6日（日）

～平成31年2月17日（日）

内容：江部乙丘陵地を歩いて、自然観察等を行いました。

参加人数：延べ85人

■野鳥の会滝川支部

定期的に野鳥や自然の観察会を実施しています。詳細は野鳥の会のホームページをご覧ください。

たきかわエコネット



(5) そのほか、たきかわエコネット登録団体の取組

■滝川消費者協会の取組

第44回滝川消費者まつり

たきかわエコネット

開催日：平成30年10月4日（木）

内容：環境ブースの出展、地産野菜の無料配布、リメイクファッションショーなどを実施しました。

平成30年度は、これまでの平日開催から土曜日の開催に変更し、地球温暖化防止活動普及大使として活動する國學院大學北海道短期大学部の学生による環境ブースの出展、北海道滝川高等学校に通う学生ボランティアの参加など若者から高齢者まで幅広い世代の市民が参加しやすいよう工夫を行いました。

参加人数：480人



リメイクファッションショー



学生ボランティアと記念撮影

○民間団体の活動のピックアップについて

「滝川おもしろ食育塾」、「NPO法人まち・川づくりサポートセンター」、「たきかわ環境フォーラム」、「江部乙丘陵地のファンクラブ」、「滝川消費者協会」は、市内で活動する民間団体として、それぞれユニークな取組を展開されており、『自然環境・農業（自然・農業の保全）』、『環境コミュニティ（人とのつながり）』で特に取り上げさせていただきました。それぞれの団体につきましては、たきかわエコネット（P23 参照）にも登録されていますので、そちらもご覧ください。

なお、民間団体の取組については、今後も積極的にピックアップしていきたいと考えていますので、まずは「たきかわエコネット」へのご登録をお願いします。

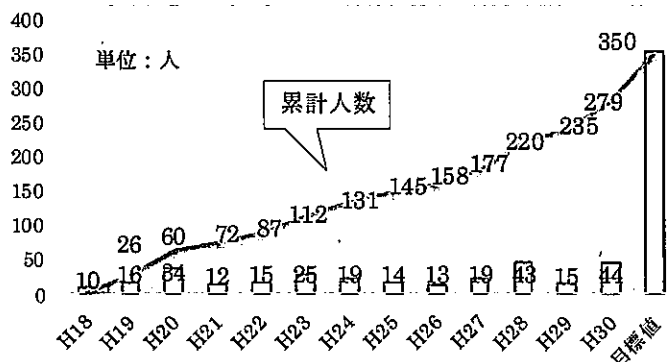
(4) 環境コミュニティ

平成 30 年度における数値目標の達成状況について

環境学習リーダー養成講座受講者数

目標値（平成 18 年度～37 年度累計） **350 人**
 実績値（平成 30 年度累計） **279 人**
 （うち平成 30 年度 44 人/年）

☆平成 30 年度までの状況

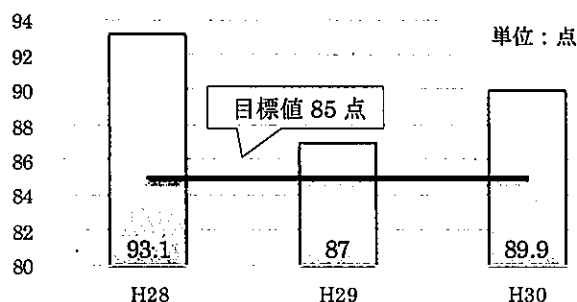


環境市民大会*における参加者の平均評価点

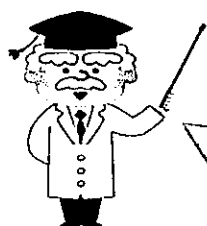
目標値 **85 点以上**
 実績値（平成 30 年度） **89.9 点**

*環境市民大会は、環境に関する市民からの意見等を聴取する場として市が毎年度開催することとしています。

環境学習リーダーの人数（累計）



環境市民大会における参加者の平均評価点



平成 30 年度の評価

先生役となる高校生や短大生などの若い世代が環境保全に取り組むことで、地域住民の関心を高め、市民が自らの行動を振り返り、個々の意識向上に繋がることが期待できます。さらに、環境学習リーダーとなる若者自身も様々な人との関わり、また人に教える経験を通して、環境に関する知識を深めるとともに、協調性や自主・自立性を養い、将来の地域づくりを担う人材を育成する貴重な場になっています。

今後も市内の教育機関や環境団体等と連携し、多くの市民が環境問題について考える機会を提供していきたいと考えています。

2 平成 30 年度の主な取組等について

- (1) （公財）北海道環境財団による高校生を対象とした環境学習リーダー養成講座の実施
 次世代を担う高校生が専門的な講座受講や子ども達へ教えるという活動を通して、高校生自身も自らの行動を振り返り、自分自身で考え、人と地球に優しい行動ができるようになることを目的に実施しました。

文部科学省からスーパー・サイエンス・ハイスクール（以下「SSH」という）に認定されている北海道滝川高等学校理数科 1 年生 38 名が、北海道環境財団が実施する専門的な環境講座を受講し、子ども達が環境教育を実施する際に必要なノウハウを学んだほか、講座の受講を通して、高校生自身が普段の生活を振り返り、「人」と「地球環境」について再度考え、責任ある行動がとれる人材を育成する場として活用しました。

◆養成講座実施期間

平成 30 年 10 月 31 日（水）～平成 30 年 12 月 13 日（木）



こども科学館で実施した「環境屋台ワークショップ」

(2) 地球温暖化防止活動普及大使

國學院大學北海道短期大学部で将来小学校教員を目指し、教職課程を履修する学生を「地球温暖化防止活動普及大使」として養成。普及大使の養成には、専門的な知識が必要となるため、環境教育に長年携わる北海道環境財団に指導・助言を仰ぎ、普及大使となる学生には、地球温暖化問題や国民運動「COOL CHOICE」の背景等の基礎的な情報、民生・家庭部門における取組推進における考え方等、基盤的な知見や伝え方のノウハウなどを同財団が保有するオリジナルプログラムへの参加を通して学んでももらいました。

※地球温暖化防止活動普及大使は、育成講座以外にも自主的に 16 回集まり教材の作成等を行いました。

◆地球温暖化防止活動普及大使による環境教室

①滝川市立二の坂保育所 4 歳児・5 歳児 23 名対象 平成 30 年 12 月 5 日（水）

②滝川市立第一小学校 5 年生児童 38 名対象 平成 30 年 12 月 12 日（水）

主 催：滝川市

共 催：國學院大學北海道短期大学部

内 容：「地球温暖化防止活動普及大使」として育成した國學院大學北海道短期大学部幼児・児童教育学科児童教育コース 2 年生 6 名が、市内保育所並びに小学校において「COOL CHOICE とは何か」や「地球温暖化の現状とその防止対策」について子ども達へ直接環境教育を行い、子ども達が地球温暖化の現状に興味・関心を持つきっかけづくりとしました。

短大生が環境教育を行うことで、次世代の「普及大使」の育成に貢献するとともに、異年齢交流を推進し、地域における環境コミュニティの創造・拡大を図りました。



短大生による滝川市立二の坂保育所、滝川市立滝川第一小学校での環境教室

(3) 環境市民大会「高校生環境シンポジウム in 滝川高校」

主 催：滝川市

共 催：北海道滝川高等学校

開 催 日：平成 30 年 11 月 10 日（土）10：30～12：00

場 所：北海道滝川高等学校 体育館

参加人数：507 名

【第1部】基調講演

演 題：「未来の天気予報から考える地球温暖化」

講 師：菅井 貴子氏（気象予報士／防災士）

内 容：近年、予想のできないゲリラ豪雨や竜巻の発生、気温の上昇による様々な影響が災害となり、私たちの身近な暮らしに大きな被害をもたらしています。

今年度の「高校生環境シンポジウム」では普段の私たちの生活と密接に関係あり、地球温暖化をいち早く感じることができる「気象（天気）」をテーマに、近年の異常気象と地球温暖化の関係について現役の気象予報士を講師に招き、これまで漠然と認識してきた「地球温暖化」の問題が、すでに他人事では済まされない世界的な問題に発展していること、将来の地球環境を守れるか否かは現在の私たちの行動如何にかかっていることを実感し、日常生活で取り組める地球温暖化防止策についての知識を深め、自分の生活を見つめ直し、一人ひとりの小さな環境への思いやりが将来の地球環境を守る可能性を秘めていることを理解してもらう機会を提供しました。

【第2部】活動報告&学習成果発表会

内 容：SSHのカリキュラムの一環で、マレーシアの自然環境を調査した海外研修チームが「パーム油」を通して見えてくる「日本とマレーシア」の環境問題のつながりについて、理数科課題研究チームでは外来種の生物などの分布調査や滝川市近郊に生息するトンボの生息調査についての発表を行いました。



菅井貴子氏による講演会



高校生による活動報告&学習成果発表会

（4）滝川市立開西中学校での地球温暖化防止講演会&ワークショップ

主 催：滝川市

共 催：滝川市教育委員会

講 師：宮森 芳子氏（北海道地球温暖化防止活動推進員）

開 催 日：平成31年2月14日（木）13時05分～15時15分

場 所：滝川市立開西中学校 体育館

参加人数：1年生44名

内 容：地球温暖化の現状を理解し、省エネについて考えることを目的に1年生を対象に実施しました。当日は、受身の講義だけではなく、生徒同士が地球温暖化の防止策について話し合い、まとめた意見を発表するワークショップも行い、普段の生活から無理せずにできる地球と人にやさしい行動について考える機会を提供しました。



(5) 市内全保育所と連携した COOL CHOICE でエコドライブ&クールビズ・ウォームビズ啓発展示

主 催：滝川市

共 催：空知自動車学校

開 催 日：夏／平成 30 年 7 月 1 日（日）～9 月 26 日（水）

冬／平成 30 年 9 月 27（木）～12 月 26 日（水）

場 所：滝川市立図書館

内 容：滝川市内全保育所の協力を得て、年長 158 名による「COOL CHOICE でエコドライブ」のぬり絵展示を行いました。また、展示に合わせてクールビズ、ウォームビズの啓発展示も同時開催しました。



保育所入所児童による塗り絵とクールビズ／ウォームビズ啓発展示の様子

(6) 滝川消費者まつりにおいて「COOL CHOICE 普及ブース」出展

主 催：滝川消費者協会

開 催 日：平成 30 年 10 月 6 日（土）10:00～15:00

内 容：地球温暖化防止活動普及大使として活動する短大生 4 名が「環境特設ブース」において、来場者 450 名へ「COOL CHOICE」の概要説明等を行いました。説明後、来場者には「自分にできる COOL CHOICE 宣言」を葉っぱ型の付箋に書いてもらい、「COOL CHOICE の木」を作成しました。

なお、展示した COOL CHOICE のパネル並びにポスター等は、環境省北海道地方環境事務所にご用意いただきました。



地球温暖化防止活動普及大使による「COOL CHOICE 特別ブース」出展の様子

(7) 「COOL CHOICE でエコたき」ポスターコンテスト応募作品展

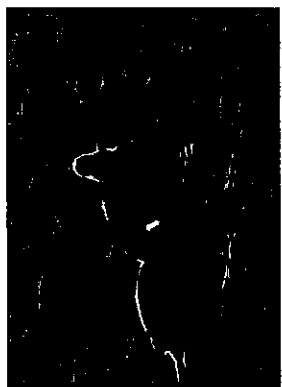
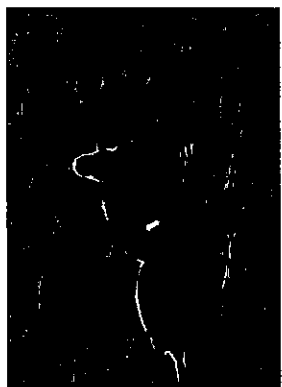
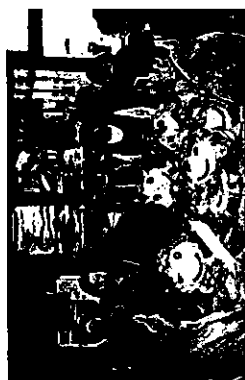
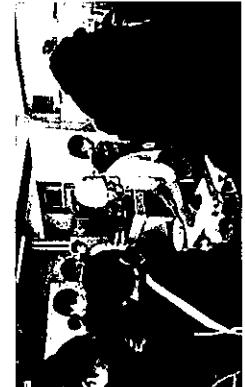
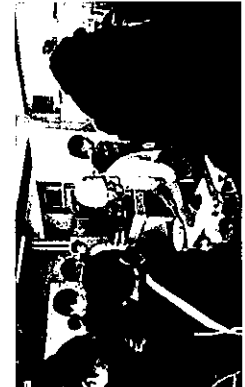
主 催：滝川市

開 催 日：平成 31 年 1 月 24 日（水）～3 月 27 日（水）

内 容：若年層が「地球温暖化防止」について興味を持ち、防止活動の方法を自ら学ぶきっかけづくりのため、市内の中学・高校の美術部を対象に「地球温暖化防止」をテーマにしたポスターコンテストを実施しました。

優秀者のポスターはステッカーに加工し、市内を走るバスに掲出し、地球温暖化防止の啓発活動を行ったほか、応募のあった全作品を市立図書館に展示し、公共交通機関利用による CO2 排出抑制を来館者へ周知しました。

たぎかわエコネット登録団体：8団体(平成31年3月末現在)

団体名		活動内容		団体名		活動内容	
「緑とエコ」サポーターネット		当会は平成13年6月10日に行われた「石狩川ルネサンスの森」の創設時に、森林の持つ多様な機能の育成と緑によるゆとりと潤いのある環境の整備を図り、循環型社会づくりを進めることを目的として設立しました。 これまでの主な活動は、毎年行われる「石狩川ルネサンスの森」整備事業であり、その他には、石狩川の水源の1つである南富良野町にあるかなやま湖で「水源の森創造交流会」などを行っています。			日本野鳥の会滝川支部		
		江部乙丘陵地は農村部に珍しいほどの豊かな自然を生み育ててきた土地です。 私たちは、この地に多くある魅力を道内はもとより日本全国へ発信するため、フットパスや自然観察会を軸とした地域密着型の環境への取組を行っています。 私たちの取組が、地域の活性化に少しでも役立てば幸いです。			たぎかわ環境フォーラム		
滝川消費者協会		本会は環境保全への取組はもちろんのこと、消費生活の安定向上及び消費の合理化普及を目指すため、各種イベントを開催し、会員相互の親睦及び一般消費者とのふれあいを目的に事業を行っています。			滝川おもしろ食育塾		
		滝川で飼育されている羊の毛を主に使い、身近にある草木で自然の色を染め、糸を作った織物や編み物など、日常的に使用できる作品を作り、販売することで羊毛の暖かさや、自然の色の素晴らしさを知ってもらうことを目的として活動しています。			NPO 法人 まち・川づくりサポーターセンター		
手紬染織工房たぎかわ							

環境都市宣言

わたしたちのまち滝川は、石狩川と空知川に育まれた豊かな大地と自然の恵みを受けて、健康で文化的なまちとして発展してきました。

しかし、今、人々の営みは、豊かな自然や調和のとれた地球環境に大きな影響を与えています。

21世紀を迎え、わたしたちは、地域の優れた環境を再生し、美しい地球を未来に引き継ぐため、環境にやさしいまちづくりに努めることを誓います。

平成15年1月1日

滝 川 市



第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画

— 年次報告書 —

(平成30年度版)

令和元年 月 日作成

〒073-8686

北海道滝川市大町1丁目2番15号

滝川市 市民生活部くらし支援課（環境衛生係）

電 話 0125-28-8013（直通）

F A X 0125-24-0154

e-mail kurasi@city.takikawa.hokkaido.jp